

校長室からのお知らせ

4月22日号 NO.3

岸和田市立山直北小学校
校長 尾野武志

テストが続きました

先週の木曜日に、6年生の「全国学力・学習状況調査（全国学テ）」があり、金曜日には5年生と6年生が「大阪府のすくすくウォッチ」というテストを受けました。6年生は、2日連続のテストデーで精神的にも肉体的にもクタクタに疲れたと思います。

6年生の教室の入り口で、「めざせ 日本一」的な励ましの言葉を見かけました。とても素敵な言葉だと感じ、山直北小学校が全国学テで「日本一」に輝く日を待ち望んでいます。

「ささやかな夢が叶わないと 人は落ち込むが 大きな夢が叶わなくても人は平気である」という言葉を以前に聞いたことがありますので、「全国学テ 日本一」になれなかったときは、深く落ち込むと思います。

さて、「テストって何のためにするの」と聞かれると、学級担任をしていたころは、まともに答えることができなかったと思います。もしかすると、「成績をつけるため」や「順位や順番を決めるため」と言っていたかもしれません。しかしながら、今は「そのときのお子さまの学力を確認して、どこが理解できていないのか、どこで困っているのかを知り、どうすればお子さまの学力が向上し、確かな学力が身につくかを先生が考えるため」と少しは校長らしいまじめな答えを返すことができるようになったと思います。

しかしながら、「テストは絶対に必要なの」と聞かれると、答えは「いいえ」になります。私の個人的な考えになりますが、ペーパーテストでは評価できない面がたくさんあると思っています。例えば、あきらめずに最後まで粘り強く取り組む忍耐力、正解にはできないが個性豊かな発想力、文章では伝わらないが話を聞けば納得できる表現力などです。昔、「なぜ、大仏を建てたのでしょうか。」という問題に、「それは、秘密です。」とテストに書いた子がいました。すごい発想で笑ってしまい、思わず花丸を付けてしまいました。日産自動車の面接で「GNP（国民総生産）」の意味を聞かれ、「がんばれ（G）日産（N） パルサー（P）」と答えて採用されたという有名な話もありますので、ペーパーテストがすべてではないと思っています。